

# 守大助さん面会記 えん罪・仙台北陵クリニック事件

3月4日(月)三浦(宮城)、田戸(救:神奈川)

大助君と千葉での2回目の面会となりました。

一人で面会と思っていたら田戸さんから「一人で寂しいから連れ添うから」と嬉しい申し入れがありました。

仙台8:46の新幹線で東京経由で千葉に11:50頃に降りました。昼食時に救援会千葉県本部に電話をかけていたら女主人が「宮城から来たの?」刑務所に何をしに」と。私は冤罪事件の守大助さんを激励に来たことや足利、布川事件のように冤罪で苦しんでいる人たちが沢山いる事を話したら「外国人で無罪になったゴビンダさんのようなこともあるんだね」と話が弾みました。

「貴方のような応援する人がいると心強いね!」店を出るとき「元気で頑張ってよ!」と声援を受けた。

大助君には、この年毎月便りを出しているのでも「いつも有り難う」と元気な笑顔で迎えてくれた。毎月の仙台フォーラス前での街頭宣伝の反応が良くなったこと。また、20日の全国集会で宮城では1万筆を目標に活動をしている三者協議での検察の意見に貴方しか反論できないことは是非、「便り」に反映させてアピール度を高めて欲しいとの要望をした。

大助君から全国各地からの便りで元気をもらっているが宮城から少なく寂しいと言われました。県内の動きや状況を伝えてもらえると嬉しいと。宮城の皆さん激励の便りをだしましょう!

三浦さん

## えん罪・仙台北陵クリニック事件

守大助さん(当時29歳)が勤務していた当時の医療法人北陵クリニックに於いて、患者5人の点滴に筋弛緩剤を混入したとして2001年に逮捕。仙台地裁・高裁・最高裁で「無期懲役」が2008年2月に確定。同年7月から千葉刑務所に服役中。

大助さんには動機がなく、患者の容体急変は筋弛緩剤の薬理効果と矛盾しており、科学鑑定でも否定されています。試料は鑑定時に全量消費、廃棄され、再鑑定ができません。

2012年2月10日仙台地裁に再審申立を行いました。

3月4日(月)三浦(宮城)、田戸(救:神奈川)

久しぶりに面会(一年ぶりかな?)しました。大助さんは予想以上に元気はつらつでした。予想以上と言うのは、長い獄中生活や霜焼けをおこしながらの靴製造など厳しい日々、精神的にも肉体的にも疲れが来て、やつれているのではと思っていたのですが、千葉で初めて面会したときと変わらない風貌でした。

地元仙台の三浦さんとの話を聞いて、壁の外と内での意思疎通の不十分さを痛切に感じました。限られた通信手段で、獄中からの発信情報は、可能な限り支援者全体のものにする必要がありますね。全国連絡会が出来たので、彼に伝える統一情報はそこからの発信して大助さんからの全国への発信も連絡会経由にすればかなり改善できると思いました。

名実ともに連絡会が支援の中核となるように成長させていかなければならないと痛感しました。

田戸さん



刑務所の庭 花吹雪

## 大助さん四季の便りを出しましょう!

● 4月の面会日。12日、17日、19日

● 5月の面会日。14日、22日、日

◆面会申し込み/救・神奈川県本部

電話050-3310-1368/fax045-663-7953

E-mail [kyuenkai-k2@clock.ocn.ne.jp](mailto:kyuenkai-k2@clock.ocn.ne.jp)

◆発行:救・千葉県本部 Tel043-251-7351 fax043-251-4159

E-mail [kyuen-chiba@kc4.so-net.ne.jp](mailto:kyuen-chiba@kc4.so-net.ne.jp)

激励先 〒264-8585 千葉市若葉区貝塚町192 守大助さん宛 2013年4月 5月号

三月二十九日（金） 宮城・川野、篠原

篠原さんと面会してきました。いつも笑顔で会ってくれている大助さんです。でも、十二年前で時間が止まったままです。篠原さんは、徳島に行った時の報告や、十二年前の警察のやり方、取り調べ方など話した折、そばで聞いている私は本当に憤りを感じました。そしていつも、ここから早く出してあげたい、このまま一緒に連れて帰りたい気持ちでいっぱいでした。切手と本を差入れてきました。

川野多喜子さん

### 3月26日（火）佐々木さん（首都圏の会）

いつもと変わらない笑顔で迎えてくれた大助さん。外運動になる前に桜が散ってしまうんじゃないかと心配していました。お互いの近況報告をして、話題は私が差し入れた本のことに、大助さんが新聞を見て気になっていたものが私から届いたのでビックリし、嬉しいと言ってもらえました。本の内容を色々話して、好みが似ているのかな～？。

大助さんが喜んでくれれば嬉しい、有り難うねと言ってもらえるもつと嬉しいです。今後もリアルタイムで色々なジャンルの本を届けたいです。最後に郁子医師の話をしてなぜ逃げ隠れするのか？自分が潔白なら堂々としていればいいのに…と私も同じ思いです。

再審開始勝ちとって両親とゆっくりしたいと言ってました。外泊できたらいいのになあ～と笑っていましたが辛く苦しい時を過ごしてきたのが判りました。本来なら家族や友人と過ごしていたはず時を奪われて事への怒りと悲しみが伝わって来ました。

皆様、どうか一日でも早く大助さんの「留学」を終わらせて様のお力を貸してください。

## 全国連絡会一周年記念集会

3月20日は集会前に仙台市内で40名が参加して街頭宣伝を署名活動とチラシ撒きを行いました。

全国各地から参加した支援する会、救援会がマイクを持って大助さんの無実を訴えました。再審請求もされて真実を明らかにして、当時の異常なマスコミ報道で犯人とされた大助さんを刑務所から取り戻すためにさらに大きな声で全国に広めましょう！

午後からの集会は阿部弁護士と山口正紀（人権と報道連絡会）の鼎談で再審請求書は志田鑑定、池田鑑定、浜田鑑定を柱に昨年からの第三者協議を行う。検察の意見書は確定審とは違う点①大阪科捜研の鑑定書で検出したのは実は変化体【n/z258】と変更。②試料（血清、尿）は残りを冷凍保存していた。③冷凍保存していた試料を分析したら弁護側が筋弛緩剤だというのを未変化体【n/z279】であると確認にされた。

各支援する 守る会の報告は札幌から徳島まで発言があり、今まで行って来た街頭宣伝、署名など創意工夫をこらして進めていること。特に医療関係者は大助さんと同じ立場であってはならない医療問題を警察 検察は犯人に仕立てたこと。女性集会への訴え、友人、知人へ積極的に訴える中で署名の輪が思わぬに人から人へ広がっている。ユーモアも交えての報告がありました。

2日は寒い朝でしたが仙台地裁へ20名で署名9000筆を持って要請を行いました。参加者が一言ずつ全国的な広がりをしめしていること、すべての証拠を開示をすること。裁判所が検察と癒着をしないで確定審で検察の有罪認定の根拠を明らかにしてほしいと訴えました。裁判所は要請団が全員が座れるだけの椅子もなく立たせたままの要請にも抗議もしながら次の要請を6月2日（金）行うことも通告をしました。仙台地裁へ提出した累積で5025筆となりました。（戸）



寒い朝！3月2日仙台地裁前要請団

